2017年3月期第2四半期決算説明会 11/2/2016 ②丸文株式会社

・本日は、「上期決算の概要」、「中期経営計画の進捗」、「通期の業績見通し」について説明します。

本日説明のポイント

▶ 2017年3月期 上期業績

売上高 1,277億円(前年同期比 13.6%減) 経常利益 △1.9億円(前年同期は14億円)

■2017年3月期 通期業績見通し

売上高 2,700億円(前期比 3.4%減) 経常利益 20億円(前期比 39.8%減)

- ■業績修正(売上高△200億円、経常利益△12億円)の要因
 - ●売上高 TV向けLCDパネルの減少、新規ビジネスの立上げ遅れ
 - ●経常利益 売上減少、円高の影響

■中期経営計画の進捗

デバイス事業

- ■自動車・産業機器向けビジネスが拡大
- ■新規ビジネスは遅れがあるが順調

システム事業

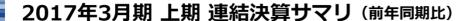
■ネットワーク機器で商材拡充が進展

MARLIBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

- ・第2四半期の業績は、売上高は前年同期に比べ13.6%減の1,277億円、経常損益は前年同期の14億円の利益から1億9千万円の損失となりました。
- ・通期業績の見通しについては、売上高は前期比3.4%減の2,700億円、経常利益は39.8%減の20億円の見込みです。
- ・期初の業績予想との差異要因は、売上面では、TV向け液晶パネルの減少や新規ビジネスの立ち上げ遅れ、利益面では、売上減少や円高の影響によるものです。
- ・中期経営計画の進捗については、計画は順調に進んでいますが、後ほど説明します。

2017年3月期 第2四半期 連結決算の概要



▶売上高 : 1,277億円(前年同期比 200億円減)

■ デバイス事業 通信モジュール向け半導体、TV・PC向けLCDパネルの減少

円高によるドル建取引の円貨換算額の減少

■システム事業 電子部品組立検査装置、組込用半導体レーザの増加

■営業利益: △4.3億円(前年同期比 18億円減)

■ 売上総利益 売上の減少に伴う利益の減少

円高によるドル建取引の円貨換算額の減少

急激な進行で仕入・売上計上時にレート差が発生したことによる減少

■ 販管費 退職給付費用の増加、連結子会社の増加

■経常利益: △1.9億円(前年同期比 16億円減)

■為替差損益 差損0.5億円→差益1.2億円

▋当期純利益:△3.7億円(前年同期比 12億円減)

MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

4

3

- ・第2四半期の決算について説明します。
- ・連結売上高は、前年同期比200億円減の1,277億円、経常損益は1億9千万円の損失となりました。
- ・売上の減少は、通信機器向け半導体の需要減や、急激な円高の進行によって、売上の過半を占めるドル 建取引における円貨換算額の減少によるものです。
- ・利益面でも、売上の減少要因に加え、円高による円貨換算額の減少や、仕入と売上計上時の為替レート 差が生じ、売上総利益が減少しました。
- ・また販管費が、マイナス金利の影響による退職給付費用の増加や、連結子会社増加により増加したことが影響しています。
- ・経常利益では、為替差益で減益幅が縮小しました。



2017年3月期 上期 業績サマリ

百万円)	16/3月	16/3月期 上期		期 上期	前年同	司期比	17/3月期 期初予想		
	実 績	構成比	実 績	構成比	金 額	%	上期	構成比	
売上高	147,803	100.0%	127,741	100.0%	△ 20,062	-13.6%	125,000	100.0%	
デバイス事業	129,599	87.7%	105,536	82.6%	△ 24,063	-18.6%	104,000	83.2%	
システム事業	18,203	12.3%	22,205	17.4%	4,002	22.0%	21,000	16.8%	
売上総利益	8,948	6.1%	8,333	6.5%	△ 615	-6.9%	9,200	7.4%	
販管費	7,533	5.1%	8,768	6.9%	1,235	16.4%	9,150	7.3%	
人件費	4,615	3.1%	5,464	4.3%	849	18.4%	-	-	
その他	2,917	2.0%	3,304	2.6%	387	13.3%	-	-	
営業利益	1,415	1.0%	△ 435	-0.3%	△ 1,850	-130.7%	50	0.0%	
営業外収益	374	0.3%	462	0.4%	88	23.5%	300	0.2%	
営業外費用	297	0.2%	221	0.2%	△ 76	-25.6%	300	0.2%	
経常利益	1,492	1.0%	△ 194	-0.2%	△ 1,686	-113.0%	50	0.0%	
特別利益	693	0.5%	0	0.0%	△ 693	-100.0%	-	-	
特別損失	755	0.5%	17	0.0%	△ 738	-97.7%	-	-	
親会社株主に帰属する 当期純利益	827	0.6%	△ 379	-0.3%	△ 1,206	-145.8%	△ 150	-0.1%	
期末従業員数(名)	1,282	-	1,438	-	156	12.2%	-	-	

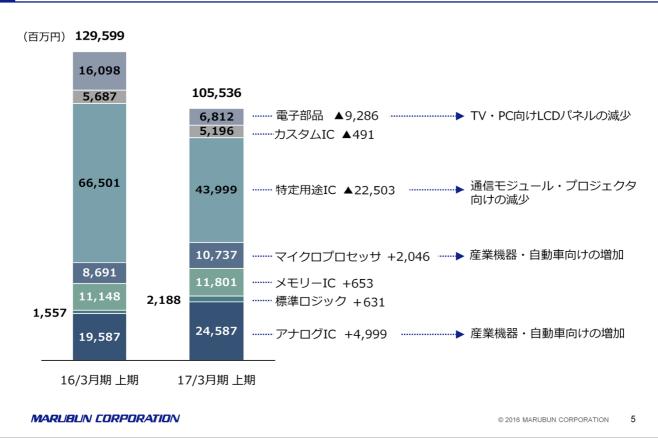
MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

4

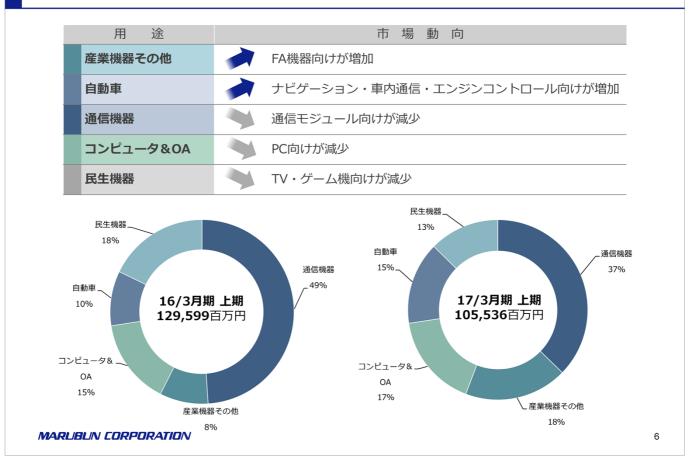
・上期業績のサマリです。





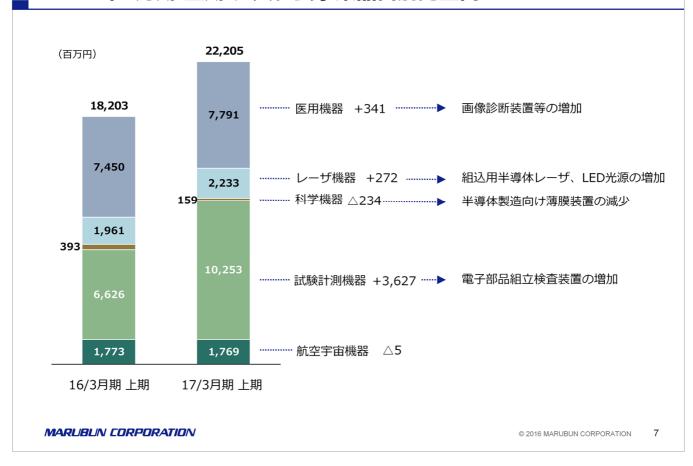
- ・2つの事業セグメント別の売上高について説明します。
- ・デバイス事業の売上は、前年同期の1,295億円から1,055億円へと減少しました。
- ・増加したのはアナログICとマイクロプロセッサです。産業機器や自動車向けで増加しました。
- ・これらは4月に子会社化したKTLの売上が大きく寄与したものです。
- ・一方減少した項目は、特定用途ICと電子部品です。
- ・特定用途ICは、大きな減少になっていますが、これは前年非常に好調だったスマートフォンの通信モジュール向けやプロジェクタ向けの反動減によるものです。
- ・電子部品は、TVやPC向け液晶パネルが減少しました。

2017年3月期 上期 デバイス事業 用途別市場動向

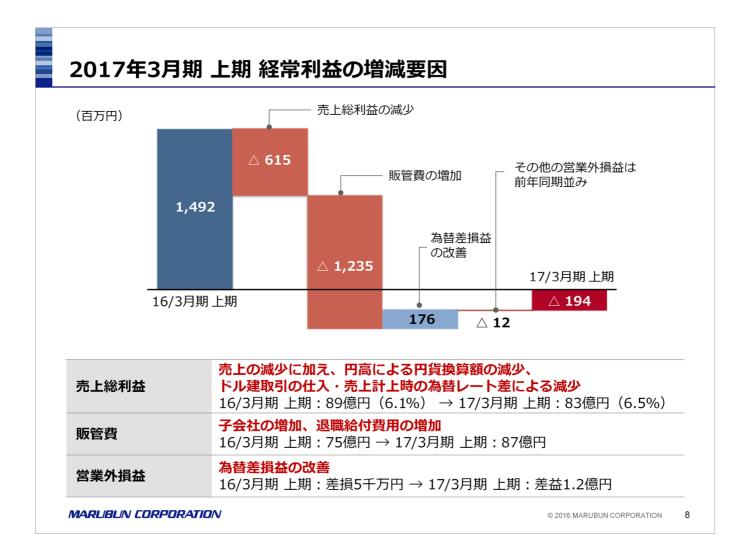


- ・デバイス事業を用途別で説明します。
- ・減少したのは通信機器、コンピュータOA、民生機器で、通信機器は先ほどご説明したとおり通信モジュール 向けの減少によるものです。
- ・産業機器と自動車は当社が注力している市場で、市場拡大に伴い、当社でも増加傾向にあります。
- ・産業機器と自動車の売上構成比は18%から33%に増加しました。
- ・産業機器はKTLの子会社化により、新たな顧客基盤ができました。

2017年3月期 上期 システム事業品目別売上高



- ・システム事業の売上は、前年同期の182億円から222億円に増加しました。
- ・増加したのは、試験計測機器、レーザ機器、医用機器です。
- ・試験計測機器は、スマートフォン用の電子部品向け組立検査装置が大幅に増加しました。
- ・レーザ機器は、産業機器組込み用半導体レーザや医療機器向けLED光源が好調に推移しました。
- ・医用機器については、MRIやCTなど画像診断装置が増加しました。



- ・経常利益の増減要因について説明します。
- ・売上総利益は、売上の減少に加え、円高による円貨換算額の減少や、仕入・売上計上時の為替レート差が発生したことで6億円減少しました。
- ・販管費は、連結子会社の増加やマイナス金利の影響による退職給付費用の増加により、12億円増加しました。
- ・営業外損益は、為替差損益が5千万円の差損から1億2千万円の差益に改善しました。
- ・この結果、経常損益は1億9千万円の損失となりました。



(百万円)	16/3月期末	17/3月期 上期末	前期末比	主な増減理由	
	実績	実績	増減額	工/ひ/目//以上口	
資産合計	106,513	109,385	2,872	現金及び預金	△ 3,130
流動資産	96,211	98,418	2,207	受取手形及び売掛金	7,171
固定資産	10,302	10,966	664	商品および製品	△ 1,171
負債合計	60,175	65,788	5,613	支払手形及び買掛金	△ 6,520
流動負債	49,481	54,453	4,972	短期借入金	11,136
固定負債	10,693	11,335	642		
				株主資本	△ 850
純資産合計	46,338	43,596	△ 2,742	その他の包括利益累計額	△ 1,135
				非支配株主持分	△ 757

MARLIBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

9

- ・総資産は、前期末に比べ28億円増加しました。
- ・受取手形及び売掛金の増加は、子会社の増加によるものです。
- ・負債は、前期末に比べ56億円増加しました。
- ・支払手形及び買掛金の減少は、主に仕入先との支払条件の変更によるものです。
- ・短期借入金の増加は、子会社が増加したことよる運転資金の増加によるものです。



(百万円)	16/3月期 上期 実績	17/3月期 上期 実績	主な増減理	Ħ
			税引前当期純利益	△ 212
営業活動による	^ 1 222	^ C FOF	売上債権の増加	△ 3,385
キャッシュ・フロー	△ 1,332	△ 6,505	たな卸資産の減少	3,510
			仕入債務の減少	△ 6,398
投資活動による	560	^ 607	子会社株式取得	△ 286
キャッシュ・フロー	300	△ 007) ZILINIVAXI II	<u> </u>
フリー・キャッシュ・フロー	△ 772	△ 7,112		
財務活動による	△ 6,744	5 1/12	短期借入金の純増	5,759
キャッシュ・フロー	△ 0,744	3,143	が発見して、近りが出	3,739
現金及び現金同等物の増減額	△ 7,438	△ 3,072		
現金及び現金同等物の期末残高	14,074	10,629		

MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

10

- ・営業キャッシュフローは、65億円の資金の流出となりました。
- ・売上債権の増加は、子会社の増加によるものです。
- ・仕入債務の大幅な減少は、主に仕入先との支払条件の変更によるものです。
- ・投資キャッシュフローは、KTLの子会社化や仕入先への投資により6億円の資金流出となりました。
- ・この結果、フリーキャッシュフローはマイナス71億円となりました。
- ・これに対応する財務キャッシュフローは、短期借入金の純増により、51億円の資金の流入となりました。
- ・以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は106億円となりました。

中期経営計画 事業戦略と重点施策		
	©	2016 MARUBUN CORPORATION

新中期経営計画 持続的な成長が図れる 筋肉質な企業の実現 積極投資による 業界再編の主導 資本効率の向上 新事業の創造 デバイス事業 システム事業 ① エンジニアリングサービス拡充 ① ベースビジネスの強化 ② 新規商材の早期事業化 ② システムインテグレーション強化 ③ 成長市場での対応強化 ③ 商品ラインナップ増強 ④ グローバル展開の加速 © 2016 MARUBUN CORPORATION MARLIBUN CORPORATION

- ・次に中期経営計画における上期の進捗・トピックスを紹介します。
- ・今年度新たに策定した中期経営計画では、「業界再編の主導」「積極投資による新事業の創出」「資本効率の向上」により、「持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現」を目指しています。
- ・デバイス事業では4つの施策、システム事業では3つの施策に取り組んでいます

新規商材の早期事業化



■ 民生機器メーカーや PC、OA機器メーカーでの 案件が進行中



- 薬機法のライセンス取得を申請中
- 医療以外のプロジェクトが進行中

 - 見守りサービス フィットネス向け

最新テクノロジーによるユニークな商材の発掘に注力し、 お客様にプレマーケティング活動を展開中 下期にも続々と新製品の取り扱いを開始予定

MARLIBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

- ・まず、デバイス事業の進捗についてです。
- ・新規商材の取組みについては当初の予定より立ち上げは遅れているものの、プロジェクト案件が着実に増加 しています。その中から本日は2つを紹介します。
- ・FINsix社の電源モジュールは、独自の技術により、様々な機器の電源モジュールを小型・軽量化できるという 特徴があり、来年度から売上・利益に貢献できる予定です。現在、民生機器やPC、OA機器メーカーでの案 件が進行しています。
- ・mc10社のバイオスタンプは、身体に貼り付けるセンサーで、体温や脈拍データなどを計測して、クラウド上で 蓄積・分析できるIoTソリューションです。
- ・製薬業界向けに販売を開始するために、現在、薬機法のライセンス取得を進めており、近日中に認証を受け られる見诵しです。
- ・医療以外でも、見守りサービスやフィットネス向けのプロジェクトが進んでいます。
- ・この他にも様々な新規商材でプロジェクトが進行中です。
- ・当社では最新テクノロジーによるユニークな商材の発掘に注力し、お客様へのプレマーケティング活動を展開し ています。
- ・下期にも続々と新製品の取り扱いを開始する予定です。

成長市場での対応強化

■自動車・産業機器・医療・IoT分野 に注力

▮ケィティーエルの子会社化

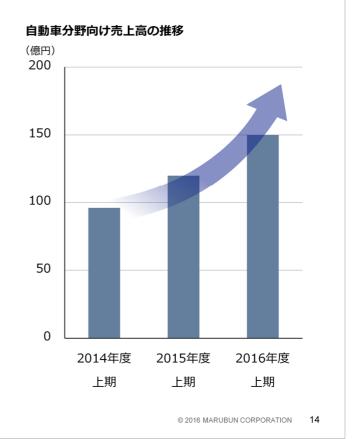
■自動車や産業機器分野の顧客基盤の 大幅強化

▮グローバル規模でのシェアアップ

■ASEAN・北米市場で自動車向けの大 幅伸長

IOT分野オリジナルのセンサー評価プラットフォーム





- ・成長市場での対応強化では、自動車・産業機器・IoT分野に注力しています。
- ・今年4月にはKTLを子会社し、自動車や産業機器分野の顧客基盤を大幅に強化できました。
- ・グローバルに見ても、自動車顧客向けの売上が大幅に増加しています。
- ・アジアでは、自動車向けの売上構成比が昨年上期の36%から40%に上昇しました。
- ・持分法適用会社になっている丸文アローUSAも自動車向けが大半で、売上は1年前に比べて25%増と予想を上回るペースで伸びています。
- ・IoT分野では、センサーやマイクロプロセッサ、通信デバイスを組合わせた当社オリジナルのセンサー評価プラットフォームがお客様に提供しています。
- ・当社から積極的にソリューション提案を行い、新たなデマンドを創造する活動を展開しています。

ベースビジネスの強化 ■カンパニー制の導入 新規案件発掘数の伸び (2014年度上期を100とした推移) **匐丸文株式会社** 前年同期比 **CHRONOS** GAIA **ARTEMIS** 21.6%UP 150 DIONE **PROMETHEUS** 100 顧客ニーズの深耕 ▮サプライヤーの開発 50 NXPセミコンダクターズ社 (旧フリースケールセミコンダクター社) との販売代理店契約の解除 2014年度 2015年度 2016年度 新規ビジネスの早期立上げ サプライヤーの開発 上期 上期 上期 **MARUBUN CORPORATION** © 2016 MARUBUN CORPORATION 15

- ・また、ベースビジネスの強化については、今年度よりカンパニー制を導入しました。
- 各商材やテクノロジーに特化したソリューション提案により、顧客ニーズの深耕を行っています。
- ・ベースビジネス強化の取組みにより、新規案件発掘数は2014年から順調に伸長しています。
- ・なお、10月25日付のプレスリリースの通り、当社が長年販売代理店を務めていたフリースケール社との 契約を3月1日付で解除することになりました。
- ・当社ではこうした変化の中でも安定成長が図れるよう、新規ビジネスの早期立上げに注力するととも に、フリースケールに代わるサプライヤーの開発に取り組んでまいります。

システム事業 製品分野の取組み

情報通信機器

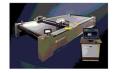
- ■東京オリンピックに向け通信インフラ商材を拡充
 - GPSシミュレータ世界最大手Spirent社と契約
 - 基地局や金融向けにGPSシミュレータ、タイムサー バなどをシステム化して一括提案



Spirent社 GPSシミュレータ

産業機器

- Gerber Technology社の裁断機の販売を開始
 - 伊藤忠テクノソリューションズからビジネス移管
 - アパレル、航空機、産業素材向けに販売
 - エンジニアリング子会社で保守サービス提供



Gerbrer Technology社 次世代自動裁断機

レーザ機器

- ■産業・医療市場向け半導体レーザ、LED光源に注力
 - マーキング装置向け半導体レーザの水平展開
 - 医療市場向けLED光源が売上・利益に貢献開始



nLignt社 半導体レーザ

MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

16

- ・システム事業の上期トピックスはご覧の通りです。
- 「情報通信機器 |では、東京オリンピックで拡大が見込める通信インフラ市場に注力しています。
- ・今上期ではGPSシミュレータの世界最大手であるスパイレント社と国内代理店契約を締結しました。同社製品と、タイムサーバや光トランシーバー、各種計測機器などをシステム化し、一括提案しています。
- ・「産業機器」では、今年6月よりGerber Technology社の裁断機の販売・保守サービスに関する業務を、他社から引継ぎ、開始しました。
- ・同社の裁断機は、アパレルから航空機や産業用まで様々な素材を高速で正確に裁断することができる のが特徴です。当社エンジニアリング子会社で、保守・メンテを担当し、当社グループでトータルサポート しています。
- ・「レーザ機器」は、産業市場や医療市場向けに半導体レーザやLED光源の販売に注力しています。
- ・産業市場向けでは、マーキング装置向けで半導体レーザが採用されており、水平展開を進めています。 医療市場向けのLED光源も、今年度から売上・利益に寄与しています。





▶売上高: 2,700億円(前期比△95億円)

- デバイス事業 通信モジュール向け半導体、TV向けLCDパネルの減少等
- ■システム事業 電子部品組立検査装置、医用機器向けLED光源の増加

▶営業利益: 19億円(前期比△13億円)

■ 売上総利益 ケィティーエル子会社化による増加

■販管費 子会社増加、退職給付費用の負担増による増加

▶経常利益: 20億円(前期比△13億円)

▶当期純利益: 9億円(前期比△9億円)

MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

18

- ・通期の業績見通しについて説明します。
- ・通期の業績は冒頭ご説明しました通り、売上高は、前年度に比べて95億円減の2,700億円、経常利益は 13億円減の20億円となる見通しです。



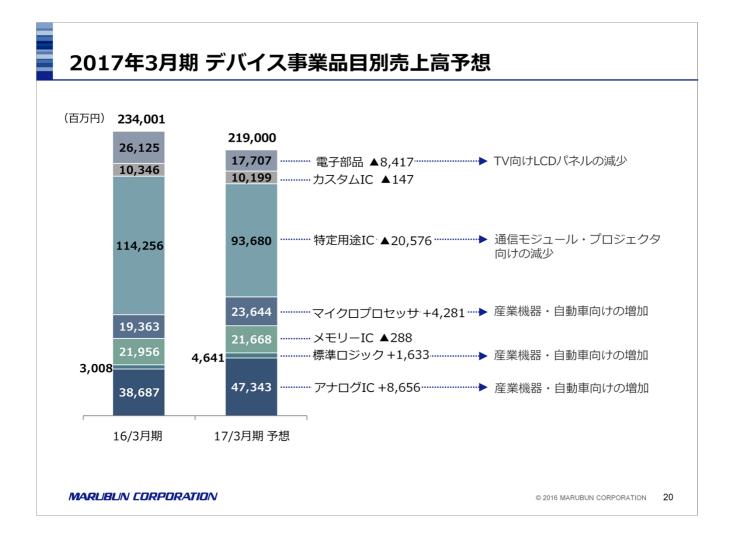
2017年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	16/3月期		17/3	月期	前期	比	17/3月期 期初予想		
	実績	構成比	修正予想	構成比	増減額	%	期初予想	構成比	
売上高	279,571	100.0%	270,000	100.0%	△ 9,571	-3.4%	290,000	100.0%	
デバイス事業	234,001	83.7%	219,000	81.1%	△ 15,001	-6.4%	240,000	82.8%	
システム事業	45,570	16.3%	51,000	18.9%	5,430	11.9%	50,000	17.2%	
売上総利益	18,319	6.6%	20,000	7.4%	1,681	9.2%	21,800	7.5%	
販管費	15,106	5.4%	18,100	6.7%	2,994	19.8%	18,550	6.4%	
営業利益	3,212	1.1%	1,900	0.7%	△ 1,312	-40.8%	3,250	1.1%	
営業外収益	734	0.3%	850	0.3%	116	15.8%	600	0.2%	
営業外費用	624	0.2%	750	0.3%	126	20.2%	600	0.2%	
経常利益	3,321	1.2%	2,000	0.7%	△ 1,321	-39.8%	3,250	1.1%	
特別利益	870	0.3%	10	0.0%	△ 860	-98.9%	0	0.0%	
特別損失	893	0.3%	60	0.0%	△ 833	-93.3%	0	0.0%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,810	0.6%	900	0.3%	△ 910	-50.3%	1,750	0.6%	

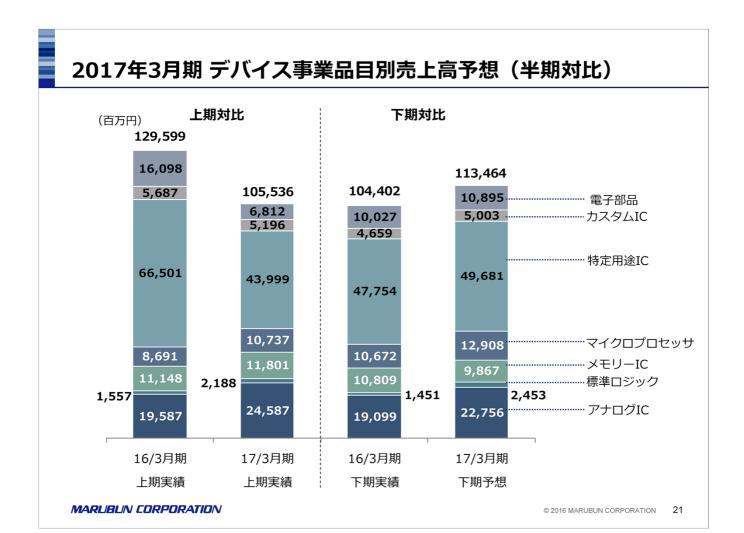
MARLIBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION 19

・2017年3月期業績予想サマリです。



- ・売上の増減要因について品目別にご説明します
- ・デバイス事業は前年度の2,340億円から2,190億円に減少する見込みです。
- ・増加するのは、アナログICや標準ロジック、マイクロプロセッサで、自動車や産業機器向けの増加を見込んでいます。
- ・一方、特定用途ICと電子部品は減少する見通しです。
- ・特定用途ICは通信モジュール向けやプロジェクタ向けで減少を見込んでいます。
- ・電子部品は、TV向け液晶パネルの減少を見込んでいます。



- ・今期と前期の上期ごと、下期ごとの比較はご覧のとおりです。
- ・下期対比でみますと、メモリーICは減少する見込みですが、その他の品目はいずれも増加する見通しです。
- ・特定用途ICは昨年の第4四半期に大きく落ち込んだため、今年度の下期対比ではプラスになる見通しです。
- ・電子部品は教育端末向けの液晶パネルや電子ペーパーの増加を見込んでいます。

2017年3月期 システム事業品目別売上高予想 (百万円) 45,570 18,800 に再機器 +12 1,007 5,141 772 19,783 試験計測機器 +4,465・▶ 電子部品組立検査装置の増加

- ・システム事業については、前年度の455億円から510億円へと増加を見込んでいます。
- ・試験計測機器は、スマートフォン用電子部品向けの組立検査装置などの増加を見込んでいます。

・レーザ機器は、組込み用の半導体レーザやLED光源の増加を見込んでいます。

5,419

17/3月期 予想

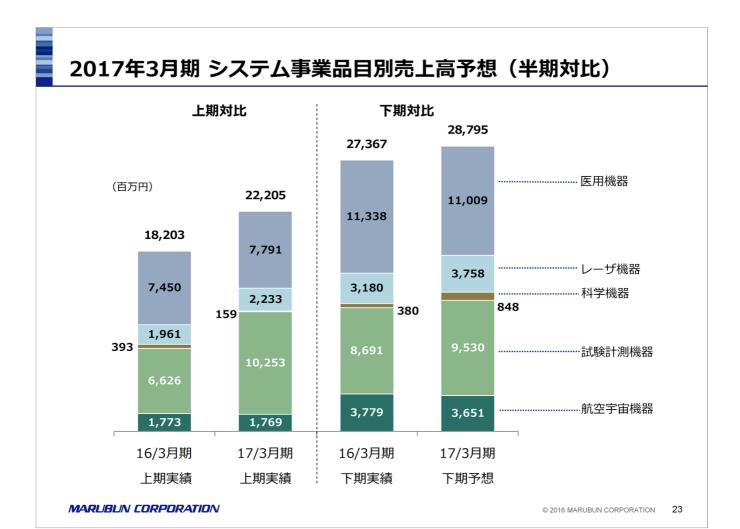
・医用機器と航空宇宙機器は前年度並みの見通しです。

5,552

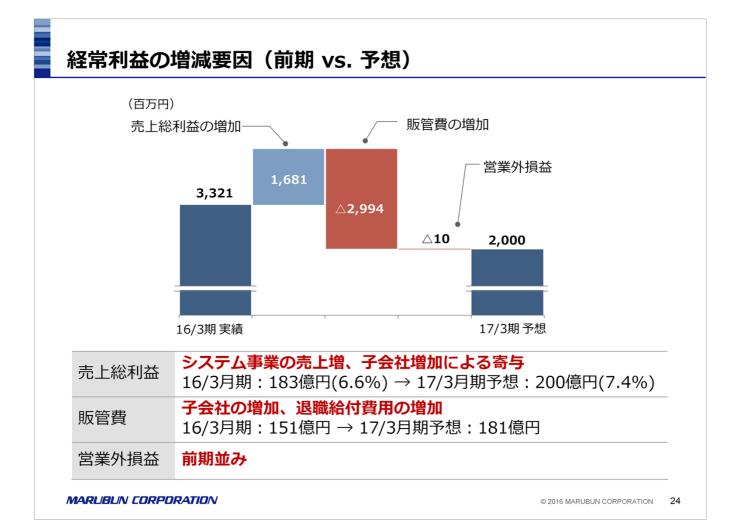
16/3月期

MARLIBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION



- ・上期ごと、下期ごとの比較はご覧のとおりです。
- ・下期対比では、試験計測機器は電力設備向けの計測機器やさきほど説明しましたGarber社の裁断機の 売上増を見込んでいます。



- ・経常利益の増減要因について説明します。
- ・売上総利益については、前年度より16億円増加を見込んでいます。
- ・これは主に、システム事業の売上増やKTLを子会社化したことによるものです。
- ・販管費の増加は、KTLの人件費・経費の増加分と、退職給付費用の増加によるものです。
- ・この結果、経常利益は13億円減少の20億円を予想しています。



株主還元 ■配当方針 ■ DOE(株主資本配当率)の推移 1.9(%) 配当性向 連結 30% 以上 1.4 1.3 1.2 0.9 12/3月期 13/3月期 14/3月期 15/3月期 16/3月期 ■配当予想 15/3月期 16/3月期 17/3月期 (円) (予想) 1株当たり年間配当金 20.00 30.00 25.00 中間配当 7.00 12.00 10.00 期末配当 13.00 18.00 15.00

MARUBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

- ・当社は、連結配当性向30%以上目安として配当を決定しています。
- ・今年度は期初の計画通り、中間配当10円、期末配当15円、合わせて年間で25円を予定しています。
- ・半導体メーカーの大規模なM&Aや急激な為替変動など、経営環境が大きく変わってきています、当社で は、説明した新規商材の早期立ち上げなどの中期経営計画の施策や事業再編に積極的に取組み、資本 効率の向上を目指していきたいと考えています。
- ・ありがとうございました。

参考情報

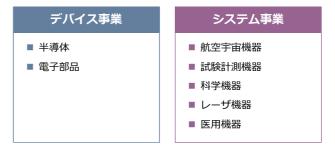
© 2016 MARUBUN CORPORATION



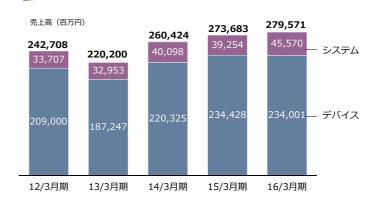
会社概要

創 業	1844年(弘化元年)
設 立	1947年(昭和22年)7月
所在地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代表者	代表取締役社長 水野象司
売上高	連結 2,795億円(2016年3月期) 単体 1,777億円(2016年3月期)
従業員数	連結 1,266名(2016年3月末) 単体 678名(2016年3月末)
株式上場	東京証券取引所 市場第一部(コード:7537)

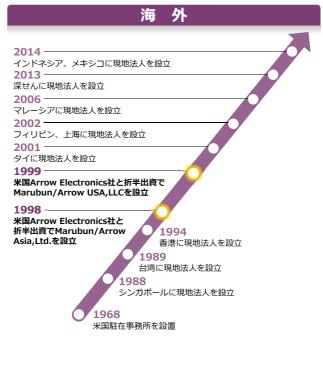
事業領域



連結売上高の推移





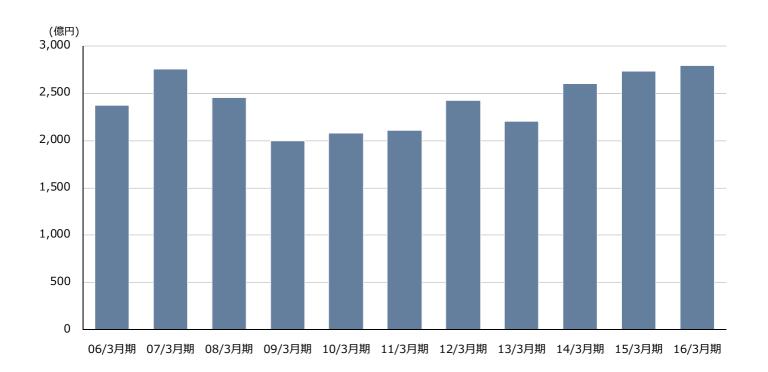


MARLIBLIN CORPORATION

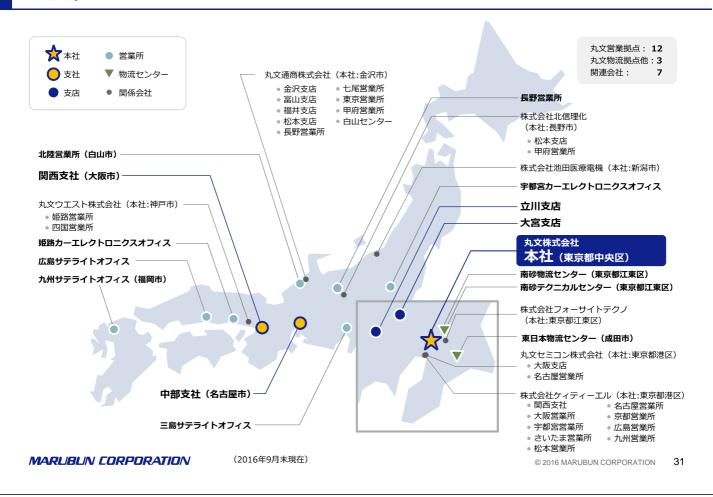
© 2016 MARUBUN CORPORATION

29

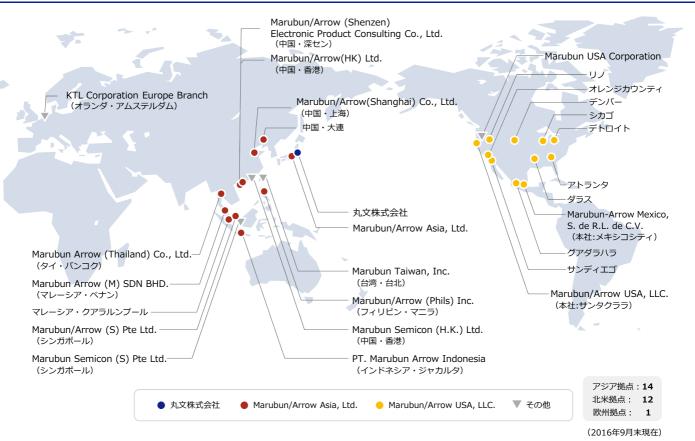
中長期売上トレンド



国内拠点

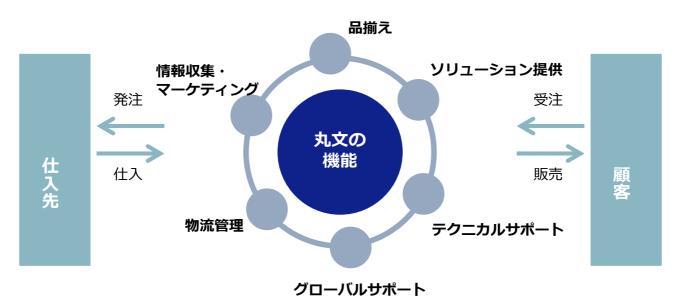


グローバルネットワーク



デバイス事業:特徴と強み

- ■海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- ■米国アロー社(85ヶ国、460拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- ■高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- ■強固な顧客基盤



MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

33

デバイス事業:グループ会社概要

社 名	住所	設立年月	出費比率	事業内容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の 仕入販売
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	,
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、 丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	海外進出した日系企業への
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50.0%	
株式会社ケィティーエル	東京都港区	1966年11月	100.0%	半導体・電子部品の仕入販売

^{*} Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexicoは持分法適用関連会社とその子会社です。

デバイス事業:取扱製品(サプライヤ別)

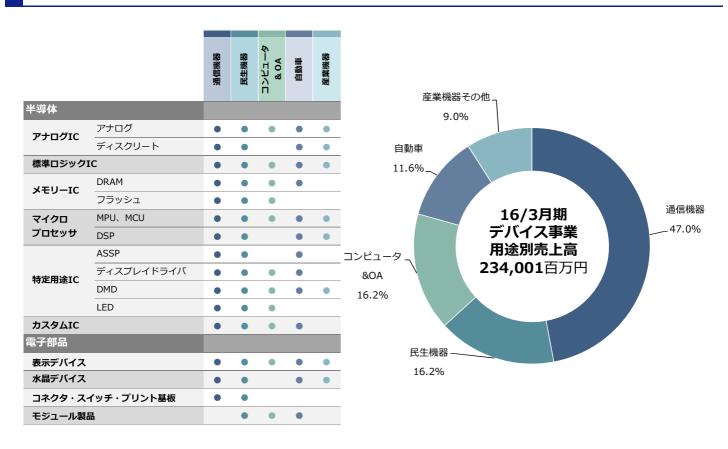
			サプライヤ (アルファベット順)														
			旭化成 エレクトロニクス	Baysand (米国)	Broadcom (米国)	Eink (台灣)	FINsix (米国)	IDT (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Open Silicon (米国)	Qorvo (米国)	Samsung (韓国)	SanDisk (米国)	セイコー Hプンソ	TexasInstruments (米国)	Unimicron (台湾)
	アナログIC		•		•				•			•				•	
	標準ロジック	7IC														•	
		DRAM											•				
\I/	メモリーIC	フラッシュ											•	•			
半		メモリーカード												•			
導	マイクロ	MPU、MCU													•	•	
₹	プロセッサ	DSP	•													•	
体		ASSP	•		•				•			•			•	•	
PT.	特定用途IC	ディスプレイドライバ					9						•		•	•	
	付足用処に	DMD														•	
		LED											•				
	カスタムIC		•	•							•		•		•		
電	表示デバイス	ζ				•							•				
子	水晶デバイス	ζ						•							•		
部	コネクタ・ス	スイッチ・プリント基板								•							•
品	モジュール製						•										

MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

35

デバイス事業:主要取扱い製品(用途別)



システム事業:特徴と強み

- ■ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- ■システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

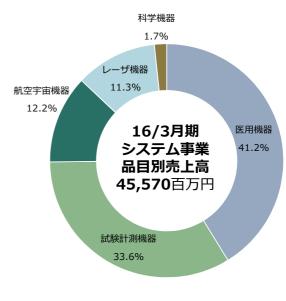
37

システム事業:グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器および試験計測機器の 仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社池田医療電機	新潟県新潟市	1961年8月	100.0%	医用機器などの仕入販売・修理・ メンテナンス
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	システム製品の修理・メンテナンス、 エンジニアリングサービス

システム事業:主要取扱い製品①

分野	主要取扱商品	主要仕入先		
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、 コニカミノルタヘルスケア		
区川域的	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、 カネカメディックス		
試験計測機器	検査・計測機器 組込みコンピュータ	アキム、島津製作所、 ARTESYN、ADLINK		
D以何关日 /火灯/及石丘	製造装置 組立装置	セイコーエプソン、 日本アビオニクス		
航空宇宙機器	高信頼性部品 計測・センサ	Tele Communication Systems、 Plascore、Lavision		
沙(土丁田)城街	航空関連機器 高周波電子機器	CPI、L3 Communications		
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	nLight、Laserline		
レ ジ1及位	ネットワーク機器 光学部品	Microsemi、Calnex Solutions、 Excelitas Technologies		
科学機器	MOCVD装置 MBE装置	AIXTRON、Riber		



MARLIBLIN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

39

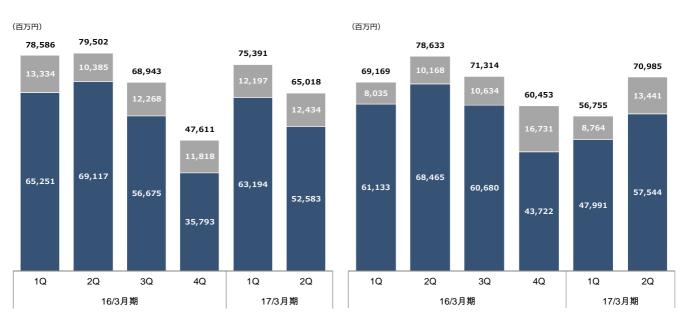
業績四半期推移(事業別受注高・事業別売上高)

事業別受注高

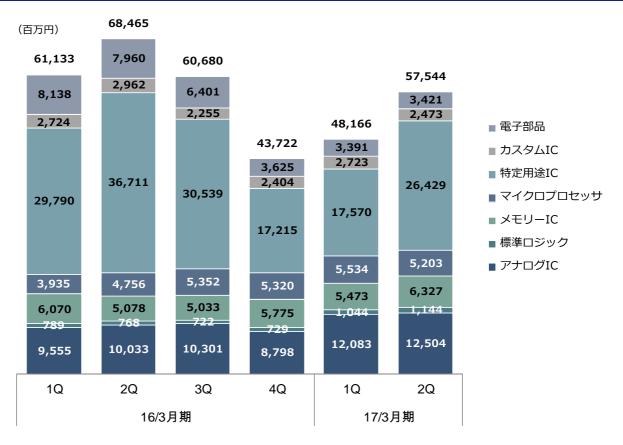
■ デバイス事業 ■ システム事業

事業別売上高

■ デバイス事業 ■ システム事業





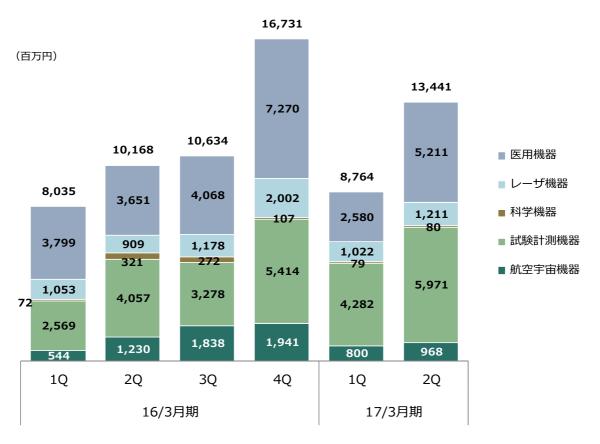


MARLIBUN CORPORATION

© 2016 MARUBUN CORPORATION

41

業績四半期推移(システム事業:品目別売上高)



本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp

MARLIBUN CORPORATION